

令和6年度 第1回 尼崎市生涯学習審議会 会議録要旨

日時	令和6年8月7日（水）午前9時から午前11時まで
場所	尼崎市議会棟議員総会室
出席者	（委員） 渥美委員、大槻委員、田井委員、田中委員、中西委員、久委員、松岡委員、 松村委員

■議事内容

1 開会にあたって

傍聴者の確認

傍聴者なし

2 市長より挨拶

（市長）

昨年もこの生涯学習審議会に出席させていただきました。今日もしっかりと勉強させていただきたいと思います。

生涯学習プラザができ、各地域振興センターがそれぞれの地域で様々な取り組みをしているところです。私も過去の地域政策の歴史について実体験をもって把握はしていませんが、過去の地域振興センターは手続き等の窓口機能はあるが、地域と一緒に活性化に向けた攻めの対応政策や取り組みをしていくところについては弱かったと聞いております。しかし、今は地域振興センター所長を中心に各地域でそれぞれの特徴を出しながら事業をやっていると思っています。また、生涯学習審議会委員の皆様を含め多くの方に様々なご意見をいただいていることに、まずはお礼を申し上げたいと思います。

市長になって1年8か月となりますが、市長が引っ張っていきやすい分野とそうでない分野があります。例えば、子ども子育て政策が分かりやすく、どこの自治体も給食費や子供医療費の問題といった分かりやすい論点がたくさんあり、基本的にはそこにどれだけ予算を投ずるかというところが一つのバロメーター、評価軸になっているところがあります。こういうところは大変難しい側面がありながらも、分かりやすいところでもあります。そして道路や駅前の整備といった街づくりも分かりやすく、取り組みやすいところがあります。

しかし、地域の活性化や地域福祉の分野というのは、予算がたくさんあれば出来るものでもないというところで、本当に難しい分野だと感じています。特に福祉分野・地域福祉分野・障害福祉分野は、市長がトップダウンで「やるぞ」と言ってやる話ではなく、どちらかと言うと皆で考え、答えや型があるわけでもなく、それぞれの課題を聞きながら、一つ一つを対応していく中で、そこにどれだけ多くの人を巻き込めるかというところを意識してやっていくことにより、初めてそれぞれの地域の特性の施策ができ上

がる分野だと、着任して短い時間ですが感じております。そういう意味で私がやるべきことは、各地域の皆さんや各地域政策に関わっている職員の発想やアイデアなどを潰さないようにすることが一番大事な仕事と思い、その姿勢で仕事に向き合っているつもりです。そう言いながら、本日は様々な意見をいただきながら、地域政策に反映できるように私も頑張っていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

3 地域政策におけるPDCA

(事務局)

【資料1】地域政策におけるPDCA

<資料説明>

4 令和5年度の地域課取組の外部評価について（審議）

(事務局)

【資料2】令和6年度地域別シート（令和5年度事業）

【資料3】着眼点シート

【資料4】地域振興センター事業一覧

<資料説明・地域課取組の報告>

(1) テーマ『施策と連携する取組』

(委員)

各地域の取組の報告を聞いていると、事業評価になっている気がします。「地域振興センターの役割は何だろうか」というところを共有しておいた方が良かったと思います。役割とは、市長の挨拶にもありましたが、1つ目は地域の協働を進めていく拠点になること、2つ目はそのパートナーとしての地域の自治力を高めていくこと。この2点が大きな柱だと思うので、今回の報告の場合は、1つ目の地域協働をいかに促進できたかを評価いただきたい。もう少し具体的に言うと、事業を通じて地域との協働がどれだけ進んだのか、あるいは庁内の連携がどれだけ進んだのかという観点で報告をいただければ、地域振興センターがやっている意味が出てくる気がします。

大庄地域と武庫地域の公園にかかる報告についてです。例えば大庄地域の（新）南の口公園で行われているのは世界的に流行している「プレイスメイキング」というものの先進的な事例を取り組んでいます。武庫地域の宮の北公園の雨庭も、世界的に注目されている「レインガーデン」というものの事例だと思います。世界的な先進的なことをやっているわけですから、こういう事業が他の公園や公園管理の部署につなげていけるような社会実験の1つとして、どのようにつながっていったのかを私は知りたいです。さらに言うならば（新）南の口公園については、専門領域からすると、都市計画公園にしない方が管理側の自由度が高まり、わざわざ公園管理の部署が管理をしなくても済むようにできるという発想があれば新しいチャレンジに見えてきます。せっかく良いことをやっているのに、もう少しPRができるような、あるいは本庁の仕事にもつながるよう

な社会実験的な取り組みになったのかという評価が必要と思います。

最後に、立花地域は旧青少年センターがあったので、青少年の居場所づくりをされていると推測しています。しかし、実はそれ以外のところでも、たくさんの地域で居場所づくりをされているはずです。どうしても市役所側が評価をすると、自分たちが実施する事業が表に立ってしまいますが、それ以外の方々がやっている事業のコーディネートをする部分も地域振興センターとしては重要な役割と思っています。具体的に言うならば、地域総合センター神崎はずっと居場所づくりやってこられましたし、元々6つの総合センターには、全て青少年会館がありました。そういった形で、まだまだ市民側が地域で取り組んでいるところもあります。そういうところも含めて評価をすると、より地域振興センターらしい評価につながったと思いますので、今年度の取組の評価をするときは、そこを重点的に見させていただきたいと思います。

(委員)

市民参画についてお聞きしたい。子育て支援のいろんなイベントがありますが、どこまで市民参画で企画が運営されたのか、また市民が企画・実行まで行うことをどう職員がコーディネートやサポートしたのか聞きたいです。「満員で参加できない方がいた」と書いてありますが「面白かった」という市民が自分たちで同じようなイベントを開催できるようになれば満員にならないと思います。また「リピーターが少ない」と書いていますが、5割は継続しているということで、新しく参加できていない方が結構いる印象もあるので、広げていく時に市民で運営できるような形にすれば活性化すると感じました。もちろん市民が主体でやってるところは引き続き応援させていただきたいと思います。どうしても企画自体を役所がやっていると、なかなか自立や自主とならないという印象も受けました。

また、地域課の職員も面白がって市民と一緒にやろうというタイプと、裏方は得意というサポータータイプなど様々だと思います。適材適所だと思いますがノリの良い職員と一緒にいると、市民自体が活性化していくことがあるので、どう活性化したか知りたいと思いました。

(委員)

小田地域は阪神医療生協とのイベントを開催され盛況で良かったと思うのですが、その後地域の方の健康づくりなどに対して、小田地域課としてどういうことに取り組まれたのかお聞きしたいです。

あと、立花地域課の中高生の居場所づくりについて、活気があるのは実際に私も確認させていただいていますが、課題報告にもありました「そこにいる誰か」を地域課職員が担っているという現状があります。そこに地域ボランティアの方であったり、ユース交流センターの方であったり、もしくは専門職の方などのフォローがあっても良いと思いました。その辺は今後どういうふうに展開されるのかをお聞かせいただきたいです。

(委員 (進行))

報告の性質として事業評価になっていないか、地域との協働を推進して地域市民の自治力をアップさせていくという波及効果はいかがでしたかという意見が出ていると思います。地域振興センターからレスポンスをお願いします。

(立花地域振興センター所長)

中高生の居場所づくりは始めて間もないものですから、活動については今のところは立花南生涯学習プラザに留まっているという印象です。今後は居場所づくりされてる地域の方と連携することも考えていけたらと思っています。

また「そこにいる誰か」については、今年度の主要事業として取り上げています。今は地域課の職員が中心にいますが、今後は指定管理者にも人員を配置していただく予定です。なかなか専門的な知識を持った方は少ないということで、ユース交流センターの研修を受けていただく等のスキルアップも考えています。

(大庄地域振興センター所長)

(新) 南の口公園のプレイスメイキングは、地域課だけでなく公園の所管部局と連携し、庁内に対しても協働型公園の取り組みを経験してもらおうと一緒にやっております。その中で、ワークショップでは多ければ30~50人ぐらい集まることもあります。グループワークでは経験の浅い職員がファシリテートを行い、経験も積んでもらっています。協働型公園は、まだ形として見えない部分もございますが協力してやっていきたいと考えております。

もう1点の(新) 南の口公園を都市計画公園にしない方が良いというご意見をいただきました。元々の南の口公園が都市計画の公園ですので、その代替えとして(新) 南の口公園も1ヘクタール分は都市計画公園とします。残りの約4000㎡の部分については宅地として売却予定でしたが、地元の方より活用したいという意見がございましたので、暫定的な利用でコミュニティスペースという形で公園と一体的に整備していこうとしております。コミュニティスペースが最も自由度が高いと思い、複合した形での使い方を予定しています。

(2) テーマ『プラットフォームや地域内のつながり等が発展した取組』

(市長)

ご意見いただく前に先ほどのテーマ(施策と連携する取組)での指摘を踏まえて、この会議の視点を補足で説明をさせていただきます。事業の説明になっているとの指摘ですが、「ウォーターフォール」という基本概念を設計し詳細を詰めて一つの建物を作っていくやり方と、一方で「アジャイル」という現場から積み上げて結果的に立派な物ができるという2通りのアプローチ方法があると思います。この分野について、令和5年度の市全体で決めたテーマは「防災に関わる地域での取り組み」と「施策と連携する取り組み」そして「プラットフォームや地域内のつながり等が発展した取組」です。各地域振興センターがプラ

ットフォームとなって、地域とのコミュニケーションを作って新しい公共（連協や町会に加えて、新しいコミュニケーションの場）を作っていくことにより、協働の基盤を作っていくという取り組みを、地域振興センターごとに様々な工夫をしてやっており、その内容について報告させていただきました。

その上で、施策との連携も意識し、その地域で収まるのではなく、それぞれのまちづくりや子育て施策と連携していくことが大事だということだと思います。例えば大庄地域で言えば公園にターゲットを当てているなど、それぞれの地域で課題を見つけて、その課題の関係部局と連携しながらやっていく形です。地域の取り組みが先進先行であるならば、それを将来の政策に生かしていく、また本庁側からすると市全体としてはまだ実施できないので地域で実験的にやってみてほしいというコミュニケーションもしながら、この施策を進めていくということもあると思います。防災は市民の安全に不可欠なことなので共通して行いますが、避難所の運営が大事、具体的な避難が大事、水域が近い地域は水害の対策が重要など、それぞれの地域別の課題があるので、地域に応じてそれぞれ必要なタイミングで防災対策をしていこうという枠組みでやっております。

今はその中のプラットフォームのご議論をいただいている中で、どうしても説明が個別の話になるのでコメントがしにくいところがあると思いますが、この枠組みは一応決めています。それぞれの枠の中の取り組みについては、市長でさえこれが正しいということがありません。現場でコミュニケーションをしながら、一つ一つ取り組んで解決していくしかないアジャイル型です。どれだけ市民を巻き込んで一緒にやれるかというところがポイントなのかなと感じていますが、評価がこれまた難しいです。そういう意味では、それぞれ取り組まれている観点から、ご指導やご意見をいただけると嬉しいと思っております。

（委員（進行））

全体の構造を改めて把握させていただきました。ご報告いただいたのは、基盤となるプラットフォームのことであるということですので、そういう観点からご意見があればお願いします。

（委員）

私も各地でプラットフォームづくりをしていますが、市が主体的に行うと頑張ろうとするんですね。私はもっとユルユルで良いのではないかという思いでいます。先程の園田地域の報告のときの「人数じゃない」というのもまさしくそうで、私が地域の方々とプラットフォームを立ち上げるときは2人いたら交流ができるんだから、1人になるまで続けたら良いじゃないですかという話をしています。2、3人が数ヶ月続くこともあります、その数ヶ月を我慢していると、また新しい方が入ってくださって盛り上がったりします。時間も2時間を予定していたら2時間使わないといけないと思ってしまいますが「今日はテーマがなかったら10分で帰ろうよ」というようなノリでも良いのではないと思っています。あまり人数や時間を構え過ぎると、その構えた姿勢が参加者に伝わってしまい、硬くなりすぎるのではないかと思っています。そういう意味では、中央地域で報告いただいたようにテーマを決めてしまうと他の話ができなくなるので、私はテーマを設けないほうが良いの

ではないかという話をしていますし、ファシリテーターが入るとファシリテーターに頼ってしまうということが起こるので、参加者の主体性が下がってくとも思います。できれば参加者がファシリテーターになり、市職員がいなくても話題を投げかけてあって回せるような主体性を高める場であってほしいです。市役所側が仕切ってしまうと、どうしても今までの会合の評価になりがちです。

小田地域は自主的に地域振興センターで井戸端会議をやってきましたが、市長が代わった途端に人数が少ない・何の役に立っているのかという話になり中止になったという経緯があります。「息を長くやっていくことに意義がある」と市役所内でも共有しておいた方が良いのではないのでしょうか。さらに言うならば、中央地域で地域発意によるプラットフォームが始まったことはとても喜ばしいと思います。やはり地域単位で行うのが一番盛り上がり過ぎて良いのかなと思っています。実は地域役員に井戸端会議的な緩い雰囲気になかなかご理解いただけないというのがポイントだと思っています。具体的に言うと大庄地域で何度か公民館講座でプラットフォームの意義についてお話をした経験あるのですが「すでにうちではできています」「間に合ってます」というお答えでした。確かに地域役員の中では情報交換が出来ているかもしれませんが、コミュニティがしっかりしているだけに、新たな参加者がふらっと来れる雰囲気が作り上げられてないことが課題と思っています。その理解がいただけると、プラットフォームが地域で始まると思います。最後に、小田地域の杭瀬小学校に行かせていただいたことがあります。当時の所長が「杭瀬の方々はずごく元気なのに、なかなか井戸端会議に足を運んでくださらない」と話になって、多分忙しいからだろうということで、我々が杭瀬小学校に伺い開催させてもらったことがあります。そういう意味では、しかるべき人が地域におられるというのは、地域振興センターで見えてると思います。その方々が参加しやすい時間帯や場所をその方々と相談をされて、そこに出張していくことはとても有効だと思います。その辺もご検討いただければと思います。

(委員)

令和5年度第1回生涯学習審議会に参加していないため、まずは情報や皆さんのお考えを伺ってみようと思っておりました。特に市長の挨拶でのお考えを聞き感銘を受けました。「福祉」と言ってくださったのは非常にありがたく思います。ただ社会福祉ではなく、普段の暮らしを幸せにしていく活動を住民の人たちが一生懸命やっていることを、施策につなげていくというお考えだと思い感動いたしました。

地域課の取組については、プラットフォームを運営していく時の連絡調整の方法をお聞きしたいです。グループLINEを作るというものもあれば、オープンチャットという言葉も出て、各地域によって違いますが、どのように住民の方たちと職員がそれぞれ相互に繋がっていく時の連絡方法を持っているのかお伺いしたいです。参加の仕掛けにしても、広報活動でばらまく方法ではなく、何かネットワークを使って連絡をされているのかどうか教えてください。あるいは、日程も何曜日の夜にやる等ご報告いただいていたのですが、私はユースやNPOの人達のプラットフォームづくりを20年近くやっていますが、参加する人達の都合を聞かずに日程調整することは不可能です。皆さんでもそうだと思いますが、日程調整があれば参加を求められている気はしますが、日程調整がなければ自分は無理に

参加しなくても良いと思いますよね。本日の報告に上がらなかった小さなミーティングや会合も多く行われていると思いますが、それらの日程調整はどういう方法を使ってやっているのかと気になりました。それとも市の都合だけで日程を設定しているのか、このあたりをお伺いしたいです。

(委員 (進行))

プラットフォームは緩くて良いという話と、それからプラットフォーム等の開催に向けた連絡方法と日程調整について、地域振興センターからのレスポンスをお願いします。

(小田地域振興センター所長)

小田地域では、プラットフォームに参加いただいた方の同意を得てグループ LINE に登録をいただいています。初めて参加された方が次回も参加していただきやすいように当日の内容等の情報共有をしますし、いつも参加されているが今回は欠席をされるという方にも今回はこういった話があったとお知らせになります。

また、プラットフォームでは「テーマを決めない」というご意見を聞き「なるほど、そういうこともあるな」と思いましたが、小田地域ではあらかじめテーマを出すことで、そのテーマなら話ができるからと都合をつけて参加することにも繋がるという思いもあります。必ずテーマを出さないといけないということではないが、今回はこのテーマで話したいという意思表示をしていただくツールとしても LINE を使用しています。

(委員)

それはわかります。私もグループ LINE は便利だと思い使っていますが、プラットフォームで様々な住民の方に入ってもらおうと考えたときに、グループ LINE に入ると相手のアカウントが全部知られてしまいますから、個別のアカウントがグループに入ってきたときに問題が起きる可能性があります。そう考えたときに、どのような連絡調整するのか。オープンチャットのスタイルがありますが、オープンチャットは言ってみれば掲示板ですので横の繋がりができなくなってしまう。どういう形で具体的にやるのか、私も答えがあるわけではありませんが、現場の方たちは一歩先を行かれてると思い質問しました。そういう課題に直面していないのか、それとも意識されてないのか分らないのですが、そこを聞きたいです。

もう 1 点、テーマを設定しないというのは「テーマにこだわりすぎるな」ということだと思います。プラットフォームは一般的に誰かを惹きつけたくなる、IT 系の言葉を使うとインターフェースと言いますが、互いに惹きつけ合う何かがあればプラットフォームになりません。テーマだけではなくて他に何かの要素がないのかということです。ゆったりできるという空間は、ゆったりしたいという気持ちを持っている方たちには、非常に魅力があるわけです。ゆったりでなくとも「子供食堂」「ユースのおしゃべり会」「カフェじい」があるなどはインターフェースになると思います。どんな具体的なインターフェースをたくさん持っているか、ここがプラットフォームの面白さを示すものだと思います。感想めいて言うと、本日の報告ではそういう具体的なインターフェースのツールがいっぱい出て

いて、こういう工夫をされているんだなと私は思いました。

もう一つ申し上げると、プラットフォームは脆くて良いんです。強い制度的な、ステーションみたいなものを作るつもりで考えると、またすぐに「公民館をつくれ」みたいな話になります。そうではなくてプラットフォームというのは、脆くて弱くて、いつもインターフェースが繰り返し変えられている。つまり、インターフェースとはおそらく賞味期限があるのです。いろいろ事業をされている中で、マンネリ化し始める、参加者が固定すると考えるのはまさにそういうことです。市民の方たちはインターフェースになりうるアイデアをいっぱい持ってらっしゃいます。そういうものを常に実現しては壊し、また新しいものを作る。そして、特定の参加者の人達にとってのインターフェースではなく、今度は障害のある人達や外国人、防災について考えている人が入りやすいインターフェースをつくります。このインターフェースづくり、つまりどれだけ複数の事業を上手く展開できるかが、プラットフォームを運営するときが一番大事なポイントだと私は考えています。その考え方でいくと、私は市民の人たちにインターフェースづくりをしてもらうのは無理だと思います。急に職員論になりますが、インターフェースを繰り返し繰り返し色々な形で作り上げていく専門性が、地域振興センターの職員だと思うので、地域振興センターの職員がどうブラッシュアップしているのか、これを評価の中に加えていただけたら嬉しいです。

まとめると、プラットフォームとはインターフェースが豊かでなければいけない、多様でなければいけない、常に変わらなければいけない。そしてもう一つは、それを進めていく人です。アイデアを出すのは住民が主体的にどんどん出せば良いと思いますが、それを繰り返していく、新陳代謝を良くしていくための専門性が職員と私は思っているので、そのあたりの職員の力量形成が現状ではどうなっているのかも伺いたいという趣旨で申し上げました。

（武庫地域課長）

プラットフォームの日程調整の関係については、他の地域も大体同じですが曜日等を決めており、武庫地域の場合は第3木曜日の12時からを昼の部と19時からを夜の部としており、仕事をされている人はなかなか昼の部に来れないので、夜の部に来てもらえるよう、毎回インスタグラムで紹介しています。オープンチャットを昨年度に立ち上げ、委員意見のように掲示板的なものになっています。立ち上げた理由としては、あらかじめ相談したい内容をアピールしてもらい、それに興味がある方がそれなら行ってみようというふうに繋がっていけば良いなということと、都合が合わずに来れない人のために今回はこんな相談やPRがありましたと報告するツールとしても使っています。ただ、厳格なルールづくりが出来ていなく、後々で誹謗中傷等が出てこないかと心配していますが、今のところはないです。こんなことを相談したい、アフターで相談が出来て良かったという形で今は展開されています。今は職員を含め40人程がオープンチャットに参加しています。

実際に武庫地域ではテーマを決めずに、その時の雰囲気それぞれの人が相談したいことやアピールしたいことを取り上げています。私たちは仕事の一環で真剣にやりつつも、常に遊び心も少し持つておくことを大切にしています。

昨年はオープン・ザ・市役所として、尼崎市で働いてみたい人の見学先として武庫地域のプラットフォームが選ばれ、40 人程が来られました。そこでは職員がファシリテーターをしました。職員のファシリテーター能力の向上のためにも位置付けており、育成も視野に入れて行っている側面もあります。あとは、和やかな雰囲気常を常に心がけています。

5 令和 7 年度地域別シート（令和 6 年度事業）のテーマについて（審議） （事務局）

【資料 5】令和 7 年度地域別シート（令和 6 年度事業）のテーマ
＜テーマ及び地域課取組の報告＞

(1) テーマ『地域特性に応じた取組の実施』

（委員）

園田地域の取り組みについて、田能の里芋というピンポイントの切り口は面白いと思います。ただ、田能の里芋をテーマにして地域の人々がどれだけ我が事にできるのかという懸念もあります。例えば、それが園田地域の特色である耕作農地を使ったコミュニティファームであれば関わりしろが広くなると思いますが、里芋となると買ったり食べたり料理をしたりという関わり方はありますが、一般の住民の方がどれだけ我が事にされるのか心配です。

もう一つ、里芋に関わってきた 3 団体について、私も身近に関わっている人達を知っていますが、そのブランディングに対してみんなの目標は一緒なのか懸念があって、それを無理やり一緒にすればかえって関係がこじれないか心配ではあります。

（園田地域振興センター所長）

3 団体のうちの 하나가、ほぼコミュニティファームという形でできていて、そこでは実際に若いお母さんたちが畑作業をされています。その方々もこの会議に来られました。3 団体がやっている畑も担い手が不足しているので、収穫体験イベント等や里芋を使ったレシピコンテストをやりながら地域の方にも関わってもらう機会を増やしていきたいと話をしているところです。ブランディングと言いましても、やはり守り、育て、無くならないようにやっていく方向性については、3 団体とも同意されていて、行政からの発信ではなく地域からこういうことがやりたいと発意があり行政が協力している立場なので、その火が途絶えないようにしっかり伴走支援していく必要はあると思っています。

（委員）

先ほどのプラットフォームの取組報告で、園田地域の「自然と文化の森プラットフォーム」の報告もありました。「誰でもご参加ください」と広報では見ましたが、自然と文化の森協会の実行委員会が主体だと思い、市民の誰でも参画できるプラットフォームという認識が私の中にはありませんでした。「誰でも参加できる」という見せ方、広報の仕

方というのは、この件も含めて大事と思いました。

(委員)

プラットフォームを知らない人がいるという話ですが、子育て世代や何か街に関わりのある世代ではない方、結婚を選択しない市民が参加できる場所が少ないと感じています。「自分のことだ」と思えると行くことができると思います。先程は年代を分けてでしたが、40代サラリーマンの会のプラットフォームであるとか、少し特殊なテーマのプラットフォームを作っていただくと、そこには新しい出会いがあるのではと考えます。プラットフォームに行って何を話したら良いんだろうという人もいます。ユースの会などはあるけど、30代40代50代の会がない、サラリーマン世代の会がないと感じました。

あと市役所でやっている市民活動図鑑について、市全域で活動している方を集めたものですが、もっと地域に寄り添った市民活動図鑑があっても良いと思います。「活動を紹介します、良かったら来ませんか？」みたいなことがあると、どれかに興味を持ってくれる方がいるかもしれない。どこも担い手不足ですが、何かやってみたいけど何からやって良いか分からない人は、急に話す場には行けないと思います。凄く話さなくてはいけない、自己紹介をさせられるなど、プラットフォームはハードルが高いと思っています。少し見るぐらいの会が1つぐらい入口としてあった方が良いのではと思いました。

また、公園整備について、現在の夏は暑すぎて子供たちが公園で遊べません。公園が今までの地域の子供たちの居場所であったりしましたが、この夏は外に出れていません。室内、もしくは影やタープのある公園が早急に欲しいぐらいに子供たちも疲弊しています。現場の声として少し聞いていただきたいと思います。

最後に防災に関して、キャンプが流行ったこともあって、キャンプグッズを持っている方が結構いるので、防災キャンプのような遊びと防災を混ぜたようなイベントも良いと思います。遊びとしてのプラットフォームでないが、そういったアイデアを出す会があれば、独身や一人暮らしの男性が来てくれたりするかなと思いました。

(委員)

先ほどから申し上げてるように、事業をやることによって、それぞれの地域協働がどのように進んでいったのかという評価を最終的にやっていただきたいので、目的をもう少し絞っていただければ良いと思っています。先程、小田地域では「新しい方々の顔が見たい」という目標を報告いただきましたが、例えば100人が参加してもその全員が今まで通りの顔ぶれであれば効果が無いということになりますので、評価ができるような形で事業を展開して欲しいというのが1点です。

地域や地域団体の活性化の話はあまり聞けなかったのですが、私はその一つのきっかけが外国人への視点だと思っています。つまり、これまで閉じられたコミュニティに入りにくかった典型が外国人だと思います。外国人にターゲットを当てているが、外国人が参加できるということは、他のたくさんの方々も参加できるコミュニティになっていて、開かれたコミュニティのきっかけづくりだと思っています。そういう観点で、外国人に対してどのようなアプローチしていくかを視点に置いて入れていただくと、地域団体

のオープンさにも繋がっていくと思いますので、意識していただければと思います。

(委員)

それぞれの取り組みの成果について、どのように評価するのかという話がありましたが、大学の方でも評価について様々な意見がありました。最近は風向きが変わってきており、何人が来たではなく、その人達が帰ってからどんなことを言っているのか、参加したことにどういう意味があったのかということをもっと深く聞いてきてほしいということでした。それを一覧表ではなく、ストーリーにまとめて、誰もが聞いてすぐ分かるようにしてほしい。たくさんあると1個1個は分かりやすくても頭に全部残らないので、何かストーリーとして残してほしいと言われて大学は困っています。例えば菓の効果の話でも、数値的な結果も良いけれど、どれだけ喜んでくれたのか、使用者は他の人にどれぐらい薦めたのかというようなことまで調査してほしいと言われることもありますが、今回の評価もそういうところが1点あるかなと思いました。

2点目は、まず市長から冒頭に地域福祉という大切な点がここで議論されるということでした。プラットフォームあるいはテーマは緩く脆くという点も強調していただきました。おそらく第一段階は終わっていて、元気な人や放っておいても声を出す人は自立してもらったら良いと思います。しかし、その緩く少なく、あえて脆くというようなどころから出てくるのは、自分で声を出しにくい人です。皆さんが声をかけないと動けない人をどうするかだと思って聞いていました。みんなで一斉に並んで防災訓練ができる人はやってくれば良いわけで、そこに参加できない人こそ一番被害を受けるというようなことは考えないといけません。外国人の方もそういう場所に自然に入れず、見えないハードルがいっぱいあるところをどうしていくかだと思います。それが基盤になると市長からもご説明ありました。いろいろなものを市として動かしていくということですので、基盤の脆さや柔らかさをもう一度見直してみる必要があると思いながら、全体を通して聞いていました。

6 地域課における業務指針について（報告）

(事務局)

【資料6】地域課における業務指針（案）

【資料7】生涯、学習！推進指針

<資料説明>

7 閉会・感想

(委員)

私は地域課の方とは顔が見える関係で、何か困ったことや何か聞きたいことがあるときは、地域課の方に聞けるという強みもあり、学校を取り込みながら色々と活動をしています。何なんだろうって疑問が上がったときに、その時々で声を上げられる関係性はできてるのかなと思っています。私のような方を1人ずつでも良いので、もっと地域の中でも増やしていきたいと感じました。

(委員)

私は小田地区在住ですが、小田地区と言いましても、JR 尼崎の北と南では随分と様子が違いますし、小田南生涯学習プラザのある JR に近い地域は活発かもしれませんが、もう少し南の地域になると高齢過疎化しています。また、同じ地区の中でも町会によって全く違うんです。同じ地区の中でも大きな道を隔てた離れ孤島のような町会であれば、盆踊りや祭りや子供会のイベントがあっても声がかかりません。どんどん高齢化して世帯は減っていきます。そういったところにこそプラットフォームを作っていただきたい。高齢者の中にはお役に立てるようなことをしたいと思っている人もいます。防災訓練についても、参加が難しい家にいらっしゃる高齢の方こそが危ないので、そういうところにこそプラットフォームを作って、小さくても弱くてもただだでも良いから、そういう機会を与えて欲しいと思います。また、ユースの場所について、学校が終えてから勉強や遊びに来るいわゆる普通の学生であれば良いのですが、例えば学校に行けない子が午前中に集まりたいとか、そういう弱者の目線でいろいろと考えていただけるとありがたいと思いました。

(委員 (進行))

ありがとうございました。お一人お一人にご意見を伺いたいのですが、なかなか時間がなく申し訳ありません。ご説明いただいた指針も含めて、ご意見がある方々は是非また事務局にお届けいただくということにして、また次回の審議会までに色々な動きをそれぞれ感知しながらやっていきたいと思っています。たくさんのご意見いただいていますので、全地域課の皆様には今後の参考にしていただければと願っているところでございます。本日の案件は以上でございます。

これをもちまして令和 6 年度第 1 回尼崎市生涯学習審議会を閉会させていただきたいと思います。長時間にわたり、どうもありがとうございました。